



救助や保護された犬・猫の殺処分を ゼロにするための活動に取り組む

熊本県 株式会社大劇 「大劇ワンニャンネット」事業



株式会社大劇
代表取締役社長
山口恭廣さん



「大劇ワンニャンネット」活動を紹介するポスター

年間40,000頭以上殺処分される 犬や猫をゼロにするために

熊本市を拠点に熊本県内に10ホールを展開している株式会社大劇は、地域社会の発展向上に貢献できる責任ある企業を目指し、地域密着型のオンリーワン企業としてのパチンコホールの姿を追い求めている。その大劇が地域貢献の一環として取り組んでいるのが、「大劇ワンニャンネット」事業である。大劇ワンニャンネットとは、地元自治体の動物愛護センターなどに引き取られた犬や猫の保護活動に協力しながら、動物愛護に携わる様々な団体の活動を支援し、可能な限り殺処分ゼロを目指す動物愛護活動である。活動を開始してから25年目を迎えるということで、実に息の長い取り組みだと言える。

環境省が発表している統計資料によれば、2017年度の全国での犬・猫の引き取り数は合計100,648頭で、うち43,216頭が殺処分されている。熊本市は2014年に犬の殺処分ゼロを達成し、全国から注目を集めた自治体だが、大劇ではその先導者とも言える熊本市動物愛護センター（ハローアニマルくまもと市）をはじめ、動物愛護団体のフィリア、ドッグレスキュー熊本、地域ネコ・福ネコの会、熊本動物愛護ボランティア リトゥルライト、県内の保健所などと交流・連携しながら犬・猫の救助、愛護、譲渡などの活動を行っており、熊本市の殺処分ゼロの運動はもとより、熊本県の殺処分ゼロを目指す活動に少なからぬ貢献をしていると言えるだろう。



従業員寮の一部を保護施設として活用



施設の周りは柵で囲っているため、犬たちがストレスなく外で遊べる

保護犬・猫の一次的里親として世話し 動物愛護の啓蒙活動にも取り組む

この活動には、大劇の社員9名、アルバイト5名がスタッフとして従事している。会社所有の従業員寮の一部を保護施設として活用し、そこで殺処分の期限が近づいた保護犬・猫を里親として一時的に預かり、予防接種や病気の治療、シャンプーなどを行い、次の飼い主が見つかるまでの間、スタッフで世話をしている。施設の周囲にしっかりと柵を設けて近隣に迷惑が掛からないようにすることで、犬や猫にとっては自由に遊ぶことができる。犬はそれぞれ独立したドッグシェルターに収容し、毎日清掃して清潔を保っているうえ、散歩に連れて行くことを日課にしている。猫には屋内に専用の部屋を設けている。次の飼い主が見つからなかったり、高齢となった犬や猫は、スタッフが最期まで施設で面倒をみることにしている。

また、大劇では地元紙や地元ラジオ局などのマスメディアを活用して、迷い犬・猫に関する情報や次の飼い主を探すための情報提供、動物愛護の啓蒙活動にも取り組んでいる。熊本日日新聞「くまにちタウンバケツ」のコーナーで迷い犬・猫の情報を掲載したり、ラジオに関してはラジオFMK「大劇ワンニャンネット」で各保健所の迷い犬・猫の情報提供、ラジオシティFM「校区の力」内で犬識や猫識の雑学を放送するとともに、社長自らが番組に出演して動物愛護の必要性について訴えている。また、大劇のホール内に告知ポスターを掲示して動物愛護の啓蒙活動を行っているが、最近では専用窓口で迷い犬・猫の問い合わせや相談が寄せられるようになったという。

さらに動物保護に取り組む団体への支援活動として、各団体が行う譲渡会へ参加したり、各団体が保護している犬・猫に対する食料費や医療費（予防接種、病気治療）、活動資金の提供を行っている。大劇では今後も関係機関や団体と協力しながら、犬・猫の殺処分ゼロを目指す活動に取り組んでいくという。